

## Ⅱ 事業の概要

### 法人

(理事会機能の充実)

近年、少子化や経済情勢等の影響を受け、私立学校を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。共愛学園ではこのような状況下にあつて、様々な課題に対して主体的、機動的に対応していくため次の事業を行いました。

#### 1 ガバナンスについて

本学園のガバナンスの在り方を探求するための一環として役員、評議員及び事務局員を対象に次の研修会を実施しました。

- ・ 2012年7月6日(金)研修会を開催し、寄附行為の解説(古田事務局次長)、保育園の保育概要(矢嶋園長)、中学の教育概要(天川教頭)について、それぞれ説明を受け、その後に質疑応答が行われました。
- ・ 小学校設置に係る研修会を年度末までの日程で設定しましたが、講師(田中智志 東大教授)との日程調整があわず、2013年5月10日(金)開催に延期しました。

#### 2 実効性のある中期計画の策定

学童クラブから大学まで6部門の財務を中心とした、5ヶ年(2013~2017年度)中期計画書を作成し、9月28日開催の理事会及び評議員会において審議・承認されました。

基本的に学園の諸事業はこの中期計画に基づいて実行されますが、今後の課題は、教育計画を含む総合計画とすることに加え、PDCAサイクルを確立し、事業計画を検証して課題を明らかにすることにあります。

#### 3 部門ごとの経営会議(委員会)の充実

「中学・高校財政問題改革委員会」、「幼稚園企画運営委員会」、「保育園企画委員会」のほか、2011年度より「学童クラブ企画委員会」を立ち上げ原則毎月開催しています。

いずれの委員会も理事長が議長となり、それぞれの部門の役職者と本部事務局職員が委員となり諸課題に対応しています。園児・生徒の確保、財政の安定及び施設設備の充実などに一定の成果を上げています。

(学園10年史編さん委員会の立ち上げ)

年度内に立ち上げる計画でしたが、小学校設置業務などに追われていたこともあり、立ち上げる事ができませんでした。

(学園総合グラウンド内への植樹)

前年度からの懸案事項であった、総合グラウンド内周の樹木について、10月にシラカシ、マデバシイ、サザンカ、ヤブツバキ、キンモクセイ、ハナミズキ、クスノキなどの幼木を植樹しました。

#### (災害に備えての備蓄対策)

備蓄倉庫を1棟、中学・高校駐車場（藤岡・大胡県道沿い）の道路をはさんだ南側の三角用地に設置しました。今年度常備した品目は次のとおりです。備蓄する品目は年次計画により充実させていく必要があります。

・飲料水（ペットボトル）	3,000 個
・アルファ米	3,000 食
・発電機	1 機
・懐中電灯	10 個
・毛布	100 人分

#### (収益法人の設立調査)

企画調査室において、共愛学園からの業務委託や施設管理を目的とする、収益法人（株式会社）設立の可能性について調査を行いました。

その内容は、別紙「収益法人の設置の可否について」のとおりにまとめられています。概要としては立ち上げることは可能ですが、設置後ある程度の規模をもって運営しないと、維持することが困難である旨の内容となっています。今後、さらに慎重に検討を加えいずれかの方向に結論付けたいと考えています。

#### (小学校設置調査)

2012 年度当初から本格的な調査に入りました。まず、基本構想となる「共愛学園小学校設置の骨子」が理事会と評議員会の審議を経て承認され、この構想について学園・各部門への説明を行いました。次いでこれに基づくところのアンケート調査をコンサルタント会社へ依頼し、県内公私立幼稚園の保護者を対象に実施しました。その結果、共愛学園小学校を設置した場合、充分に入学定員 60 名の児童を確保できることの分析報告となりました。

また、最近設立された先進校 2 校（山梨学院大学附属小学校、西南学院小学校）を視察しました。いずれも独自の特色のある教育を行っており、児童募集や経営状況も順調に推移していることを知ることができました。

これらの調査を経て、1 月の理事会及び評議員会において、2 年後の 2015 年を目処に小学校を設置することが決定されました。しかし、目標としている土地の取得が進展せず、設置時期を 1 年延期して 2016 年度とすることになりました。

3 月に小学校設置準備室が設けられ作業に入っていますが、現在は地権者と売買について交渉を行っています。

#### (岩神キャンパス跡地への記念碑建立)

懸案であった旧岩神キャンパスへの記念碑建立については、前橋医師会と 1 年以上に亘って交渉を行いました。その結果、同医師会立の准看護学校正門付近へ高さ 120 c m、幅 70 c m の記念碑を建立することができました。この除幕式が 2012 年度 6 月 30 日（土）に学園関係者 90 名が出席し挙行されました。

## 大学

(入学の状況)

特待生制度や奨学金の充実、広報活動、募集活動の積極的な展開などにより、定員以上の学生を確保することができました。

2012年度 コース別入学概況 (入学定員 225 名、編入学定員 5 名) (名)

	国際社会専攻				地域児童 教育専攻	計
	英語	国際	情報経営	人間文化		
応募者	167 (2)	89 (1)	111 (2)	98 (4)	92 (0)	557 (9)
合格者	112 (2)	61 (1)	79 (2)	64 (2)	66 (0)	382 (7)
入学者	81 (2)	37 (1)	61 (2)	45 (2)	34 (0)	258 (7)

( ) 内数値は編入学の内数

(専任教員人事)

2011 年度末に教授 3 名 (経済、情報、地域史) と講師 1 名 (英語) の計 4 名が退任し、2012 年度より講師 2 名 (経営、日本史) を新規に採用しました。この結果、専任教員は 2 名減の 31 名体制となりました。

(専任職員人事)

非専任職員 (主に専門職) の増員は行いましたが、専任職員の就退任は特になく 21 名体制となりました。

(4 号館献堂式及び祝会を挙げる)

前年度末に完成した大学 4 号館 (共愛コモンズ) の献堂式を 6 月 2 日 (土) に挙行しました。出席者は大学教職員と学園関係者を合わせ約 150 名でした。献堂式を 1 号館チャペルにて、祝会を 4 号館レストランにて行いました。

この 4 号館共愛コモンズは人気が高く、多くの学生や教職員に様々な形で利用されているほか、大学以外の他部門にも利用されています。また、最先端のデザインと機能を備えた建物として全国的にも注目を受け、1 年以上経った現在でも専門の建築関係者や学生などが視察に訪れています。将来的には旧アメリカンボードと並んで学園新旧のシンボリックな建物になる可能性もあります。

(4 号館プロポーザル作品の記録集作成)

プロポーザル作品の記録集を 500 部作成し、プロポーザル応募者並びに学園関係者へ贈呈したほか、献堂式の出席者にも記念品として配布しました。

内容は、採用された最優秀賞 (乾 久美子 建築設計事務所) のほか、優秀賞 1、佳作 5 の作品紹介、選考経過及び審査委員の講評 (委員長 倉田 直道 工学院大学教授) 等から構成されています。

また、提出された 321 作品のうち、237 作品を DVD に収録してまとめ、巻末に添付しました。

(グローバル人材育成推進事業の採択)

当初計画にはなかったが、文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」に応募し採択されました。

これから社会に出る若い世代には、「内向き志向」を克服し、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる能力が求められています。そこで、グローバル人材の育成を目的とした大学教育や体制整備を推進する事業（大学）に対して、重点的に支援するのがこの事業の目的であります。そして採択された大学には最長5年間の財政支援が行われます。

これは全国の国公立大学や私立の大規模校と競争し、また、群馬県内では本学のみが採択されたことに大きな意義があり、本学の教育が日本有数の大学と同等に、質の高いものであることが認められたこととなります。

初年度は、実質5ヶ月の活動期間であったことから、機器・設備を含む事務局整備、広報関係、協議会の立ち上げなど、推進のための基盤整備が中心業務となりました。

(資格特待生を含む奨学金制度)

資格特待生を含む新しい奨学金制度へ2012年度から移行しました。その新制度の基本的な概要として、資格特待生の適用は2012年度より1年次のみ限定され、資格特待の学年進行に伴って生じる原資を基に、新たに各種の奨学金制度を設けたことです。2012年度について、1年生は新制度の資格特待制度が適用され、2・3・4年生には旧制度が適用されたことから、奨学金は前年度より若干の減額に留まりました。しかし、今後は年度更新に伴って順次縮小され、膨らむ一方であった奨学金は、特に新入生確保に支障なく抑制され、新制度の完成年度である2015年度には1億円近くまで圧縮される見込みです。

年度別の資格特待生と奨学金 (参考)

(単位：万円)

年 度	資格特待生	他の奨学金	計	記 事
2011 年度決算	17,325	1,704	19,029	
2012 年度決算	16,085	2,581	18,666	新制度へ移行
2013 年度予算	14,634	2,712	17,347	資格特待生2年生のみ適用なし

なお、資格特待の学年進行に伴って生じる原資を基に、新設された奨学金制度は次のとおりです。

- a 共愛学園ともさくら奨学金：経済的困難な学生を支援
- b 学業奨励奨学金：各コースの成績最上位者に対する奨学金（原則20名）
- c コース学業奨学金：各コースの成績優秀者に対する奨学金
- d ワークスタディ奨学金：2年生以上が対象で学内勤労に対する奨学金
- e インターンシップ奨学金：学内で専門的業務に従事することで得られる奨学金
- f プロジェクト支援奨学金：優秀なプロジェクトに対する奨学金
- g その他、これまでの奨学金の継続と内容の一部変更

(地域貢献)

2008 年度に設立された地域共生研究センターを核にして、地域との共生（連携）を推進するため幅広い活動を行っています。

2012 年度中の同センターの活動実績は次のとおりです。

【主催・共催事業】

- ・ 「きょうあい子育てひろば」を企画立案し、3シリーズの他、託児養成講座を実施。
- ・ 「しぶかわ子育てひろば」（渋川市保健福祉部こども課共催）1st、2nd 各1回
- ・ 「お父さんのまえばし・きょうあい子育てひろば」（前橋市教育委員会生涯学習課/公民館共催）
- ・ 群馬現代史研究会主催
- ・ 生涯学習講座
- ・ 公開講座

※公開講座内容

開催日	講座名	担当者
11月10日(土)	建築設計、協働の楽しさ	乾 久美子建築設計事務所代表 東京藝術大学 准教授 乾 久美子
11月24日(土)	学習環境デザインの最前線 —学びの空間が大学を変える—	東京大学大学院 情報学環・学術情報 学府 准教授 山内 祐平
12月1日(土)	空間が学生の学びをどう変えたのか — KYOAI COMMONS のコンセプトと学 びへの影響—+KYOAI COMMONS 見学会	本学教員 教授 大森 昭生 教授 後藤 さゆり 准教授 奥田 雄一郎

【地域連携事業】

(委員等派遣)

- ・ 群馬県男女共同参画推進委員、・伊勢崎市男女共同参画推進協議会委員など。

(講師等派遣)

- ・ 男女共同参画講座、・女性リーダー養成講座、・沼田市男女共同参画セミナーなど。

(共同研究等)

- ・ 本学共同研究費により「群馬現代史研究会」が発足、活発に活動をし、5年が経過。

(共催事業)

- ・ 自治体、公民館、社会教育施設、町内会、地域団体等々との共催事業を展開し、地域との連携を強化。

【ボランティア派遣事業】

前橋市内小中学校、伊勢崎市内小中学校、群馬県青少年会館などへボランティア派遣。

(施設・設備等の充実)

① 4号館建物追加工事

教卓、PC用長机、学生運営カフェカウンター、冷凍ショーケース、自習机などの設置のほか、床仕上げ材変更などの追加工事を行いました。

② 4号館外構追加工事

4号館の完成に伴い、ゲートの移設、看板移設、ライン引き、インターロッキング敷設工事など外構追加工事を行いました。

③ 1号館演習室の机及び椅子の入替え

年次計画にしたがって、老朽化していた2階2教室の机30個と椅子90脚を買い替えました。

④ iPod Touchの配布

2012年度も大学経費においてiPod Touchを300台取得し、新入生へ配布しました。

(借用地の一部取得)

前橋市からの借用地(グラウンド)一部1,580㎡(439坪)を3,365万円で取得しました。

これにより前橋市からの借用地は残り4,269㎡(1,294坪)となり、現在の鑑定価格で試算すると9,919万円となります。

(進路の状況)

- ・2012年度卒業生の進路状況は次のとおりです。

(名)

就職者	175
就職未定者	23
その他	26
進学者	10
計	234

就職率 88.4% (175/198)

- ・就職者の業種別進路と主な企業は次のとおり。

(名)

業種	人数	業種	人数
サービス業	66	自営業	2
出版・印刷業	2	商社	8
官公庁	11	情報通信業	13
教職員	17	製造業	12
金融業	4	流通・小売業	35
建設業	5	計	175

## 高 校

(人事について)

退職等

- ・ 定年退職教諭 1 名
- ・ 教諭 1 名及び専任講師 3 名退職
- ・ 教諭 1 名、専任講師各 1 名の年度途中の産休、育休取得
- ・ 非常勤講師 5 名退職

採用等

- ・ 教諭 1 名年度途中の育休からの復職
- ・ 非常勤講師 4 名の専任講師への任用替え
- ・ 専任講師 3 名の新規採用
- ・ 勤務期間 5 年以上の専任講師 2 名の教諭への昇任

・ 教 員 (名)

年度	専任教諭	専任講師	左の計	非常勤講師
2008	46	12	59	21
2009	43	15	59	23
2010	46	12	59	24
2011	46	15	61	24
2012	45	15	60	20

・ 職 員 (名)

年度	専任職員	パート職員	学寮職員	計
2008	6		4	10
2009	6		4	10
2010	6	1	4	11
2011	6	※1	4	11
2012	6		4	10

※ パート職員 1 名は、2012 年度より振興費補助金算定上、中学本務で計上。

(生徒確保と入学の状況)

2010 年度より普通科を英語科と同じく特進コース及び進学コースの 2 コースに改編したが、2012 年度をもって完成年度を迎えました。

共愛学園中学校からの内部進学者が 69 名と少なかったことや応募者が減少したこともあり、360 名の入学定員を確保することができませんでした。

入学概況 (名)

	普通科		英語科		計
	特進コース	進学コース	特進コース	進学コース	
定員	230名		130名		360名
応募者	981 (41)		288 (28)		1269 (69)
合格者	202 (10)	663 (31)	128 (6)	142 (22)	1135 (79)
入学者	24 (10)	220 (31)	32 (6)	69 (22)	<b>345</b> (79)

※ カッコ内は共愛中学出身者の内数。

(特別奨学生(特待生)制度の充実)

すべての入試に特別奨学生制度が適用されることを周知し、学業優秀者・スポーツ等優秀者の両面から意欲のある生徒を確保し、より活力のある学校づくりを目指しました。

特別奨学生(特待生)は定期的(学年末)に学業成績や部活動の様子など継続審査が行われ、年度の途中や年度末に資格を失う場合もあります。

なお、学業特別奨学生よりもスポーツ等特別奨学生が全体に占める割合が高い傾向にありましたが2012年度は36名の特別奨学生の内、25名が学業特別奨学生でした。

内容は次のとおりです。

- ・ 特別奨学生S - 入学時の入学金・施設費及び毎月の授業料・施設維持費を全額免除
- ・ 特別奨学生A - 入学時の入学金と毎月の授業料を全額免除
- ・ 特別奨学生B - 入学時の入学金と毎月の授業料を半額免除。
- ・ 特別奨学生C - 入学金及び授業料の半額を免除
- ・ 特別奨学生D - 入学金の半額を免除

過去5年間の特別奨学生(特待生)の入学実績は下記のとおりです。 (名)

	特別奨学生S		特別奨学生A		特別奨学生B		特別奨学生C		特別奨学生D		計
	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	
2008年度	0	0	6	6	10	9					31
2009年度	0	0	5	11	10	13					39
2010年度	0	0	5	12	3	—	5	18		—	43
2011年度	0	0	6	12	4	—	7	13		—	42
2012年度	0	0	8	4	4	—	9	7	4	—	36

※ 2010年度より学業特別奨学生はSからDまで、スポーツ等特別奨学生はAまたはCのランク付け。

(進路の状況)

経済情勢を反映して、昨年度と比較すると4年生大学への進学者が14ポイント減少し、専門学校への進学者が約10ポイント増加し、就職者も増加しました。

今後も、国公立大学や難関私立大学への合格者数を増やすこと(出口)が、生徒の確保(入口)に繋がるために、より一層学習指導や進学指導に力を入れていきます。



(名)

区 分	人 数	区 分	人 数
大 学	182 (50%)	留学予定	6
短 大	31 (8%)	就 職	9
専門学校	111 (31%)	浪人・その他	22
留学予定	6	計	361

(施設・設備の充実)

① 高校サッカー部マイクロバス（中古）の購入

サッカー部の部員の数が増え、対外試合や遠征に行く際に現在の中型バスでは部員が乗り切れないために、サッカー部保護者会からの強い要望があり、まずは学校で一時購入代金を立て替え、5年を目途に保護者会が返済していく計画で、29人乗りマイクロバス1台（約400万円）を購入した。（2012年度返済額80万円）

② CALL教室PCの更新

私立大学等研究設備整備費補助金（私立高等学校等IT教育設備整備推進事業費）を活用し、CALL教室のPC48台を更新した。（966万円（高校760万円、中学206万円））

③ 礼拝堂舞台設備昇降装置交換工事

礼拝堂ステージに設置してある舞台設備が経年劣化によりブレーキが作動せずにボタンが落下する危険性があるため、昇降装置6台のウィンチ及びワイヤーなど全交換を実施した。

（130万円（高校104万円、中学26万円））

④ 校旗の製作

今から47年前の1966年に、当時の父兄後援会（現保護者後援会）から寄贈を受けた校旗も年月の経過とともに大分傷みが激しくなっているため、2012年度高等学校卒業生記念品として新たな校旗の寄贈を受けた。（高校61万円）

## 中 学

(人事について)

退職等

- ・ 定年退職教諭 1 名
- ・ 教諭 1 名の非常勤講師への任用替え
- ・ 専任講師 1 名の非常勤講師への任用替え
- ・ 非常勤講師 1 名退職

採用等

- ・ 専任講師 1 名の新規採用
- ・ 勤務期間 5 年以上の専任講師 2 名の教諭への昇任

(名)

年度	専任教諭	専任講師	助教諭	左の計	非常勤講師
2008	9	4	1	14	6
2009	9	4	1	14	6
2010	7	6	1	14	6
2011	7	6	1	14	8
2012	7	6	1	14	11

(入学の状況)

伊勢崎、高崎、太田、桐生における校外入試説明会に加え、本校を会場とした前橋地区説明会を新たに開催したほか、夏期休暇中、中学校職員による受験生の取り込みに向けた小学校訪問を行ったが、結果的に定員 100 名を下回る 97 名の入学者の確保に留まりました。

入学概況 (入学定員 100 名)

(名)

	第 1 回入試		第 2 回	第 3 回	計
	推薦	一般	一般	一般	
応募者	51	62	29	13	148
合格者	50	40	9	11	113
入学者	50	30	8	9	97

(進路の状況)

卒業者数 87 名中、共愛学園高校に内部進学した生徒は 77 名、他校への進学生徒は 10 名。

年 度	卒業者数	内部進 学者数	外部進学者数						計
			県内 公立	県内 私立	県外 公立	県外 私立	海外 留学	その他	
2008	84	72	4	3		4	1		12
2009	102	87	1	8		5	0	1	15
2010	90	79	5		0	5	0	1	11
2011	83	69	8	2	0	3	1		14
2012	87	77	6		1	1	2		10

## 幼稚園

### (教員の増員)

3歳児クラスを非常勤講師が受け持ったので常勤教員は1名減となりました。これにより常勤の教員は8名から7名体制（園長含む）になりました。

### (園児募集)

園児募集を強化するためホームページを中心に広報関係の強化を図りました。  
移転して6回目の園児募集です。年度当初の入園児及び園児数は次のとおりです。

(名)

	入園児	在園児
3歳児	21	29
4歳児	2	32
5歳児	1	26
	24	87

※ 6月より開始の満3歳児を除く

### (課外活動)

園児募集の一環として引き続き課外活動を実施しました。申込者等の概要は次のとおりです。

※ 体操教室は2009年度より開始

	英会話クラブ	絵画造形クラブ	サッカー・体操教室	児童英語クラブ
申込者数	全園児対象	18名	46名	13名
講師	本学留学生	本大学教員	本大学学生	本学教員・学生
開催日数	11日	3日	32日	6日

## 木瀬保育園

(職員数)

(名)

	園長	保育士	調理室	看護師	事務員	計
2011年度	1	19	3	3	0	26
2012年度	1	21	3	3	1	29

※ 保育士2名、事務員1名の3名増

(園児数)

(名)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	15	18	22	25	25	25	130
実員	11	19	24	27	28	25	134

(保育)

移管後4年目を迎え、キリスト教主義保育を取り組める環境が整い、子どもたちと共に礼拝を守れるようになりました。

(施設整備)

前橋市の施設整備補助を受けて、北門・西門を電子錠に切り替え、北入口に屋根を設けたほか、保護者駐車場を整備しました。

## 学童保育クラブ

(児童の確保)

開所初年度の 2011 年度は児童 14 名でスタートしましたが、6 月に 3 名の入所があつて 17 名となりました。2012 年度は人材や施設など共愛の特色を活かした保育活動を展開することによって、地域社会からは一定の評価が得られ、入所者は 25 名となりました。

(移転の準備)

総合グラウンド管理棟において暫定的に保育を行っていましたが、大学の西南隣接地に民家（土地 155 坪、家屋 50 坪）を取得できたことから、2013 年度からの移転に備えて年度末に改修工事を行いました。